

	王寺町総合戦略懇話会（効果検証）記録
日 時	令和元年11月11日（月） 13:30～15:30
場 所	やわらぎ会館3階 小会議室2
出席者	<p>委 員 井村知次委員（王寺町自治連合会会長） （五十音順） 奥田隆司委員（シャープ株式会社元会長） 勝見幸子委員（王寺町PTA連絡協議会元副会長） 辻本俊秀委員（奈良テレビ放送株式会社会長） 友村浩之（株式会社南都銀行王寺支店長） 中川義弘委員（王寺町議会議長） 西口清治委員（奈良学園大学学長顧問） 平岡秀隆委員（王寺町副町長）</p> <p>王寺町 平井康之王寺町長 中野教育長、森田理事兼地域整備部長、吉川議会事務局長、 幸田総務部長、植野総務部理事、竹川住民福祉部長、 森田こども未来部長、清川水道部長、中井教育次長、 前田地域整備部参事</p> <p>事 務 局 南政策推進課長、酒田総合戦略係長、梶井総合戦略係主事</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付 2. 町長挨拶 3. 議事進行委員選出 4. 王寺町の人口動向について 5. K P I 達成状況についての個別説明、質疑応答及び評価 6. 全体講評 7. その他
1. 委嘱状交付	
2. 町長挨拶	<p>大変お忙しい中、懇話会にご参加いただき御礼申し上げます。</p> <p>本日の総合戦略懇話会では、第1期王寺町総合戦略の期間が平成27年度から令和元年度までの5年間であり、5年間の実績、評価、総括をお願いする。国においても第2期まち・ひと・しごと総合戦略が策定中であり、王寺町も、国の動向を注視し、第2期王寺町総合戦略について検討している。また、王寺町では、多くの方にご協力いただき今年3月に新しい王寺町総合計画を策定した。第2期王寺町総合戦略と新しい王寺町総合計画前期基本計画は、内容的にほぼ重なってくるというのが実態であり、統合した形で進捗管理を図っていきたい。よって、第2期王寺町総合戦略は総合計画審議会の枠組みで検討し</p>

ていくが、現在の総合戦略懇話会委員の皆様にもできるだけ関わっていただきたいという思いがある。

全国的に人口減少している中で、王寺町では、40年後、2万人を維持するという目標を掲げる人口ビジョンを作った。ここ数年は概ね、町が策定した人口ビジョンに沿って人口が増加しているが、いずれは減っていくだろう。

王寺町の現在の人口は自然体で出た数字ではなく、人口を維持する為に、子育て世帯対策や若い世代の転出を防ぐ取組を行ってきた結果であり、平成29年の合計特殊出生率が1.87であったが、これは奈良県の中でもトップではないかと思う。平成30年においても1.72と高い水準であるので、この傾向を今後も維持していきたい。

その為にも、第1期王寺町総合戦略における事業効果の検証を行い、第2期王寺町総合戦略に反映していく事が大事。皆様のご協力をよろしくお願ひし、冒頭の挨拶とさせていただきます。

3. 議事進行委員選出

事務局： 本日の議事進行をいただきます委員の方をお決めいただきたい。

委員： 王寺町副町長でもあり、町の事業の状況にも精通されておられる平岡委員が適任と考えますがいかがか。

委員一同： 異議なし

委員： 本日の進行役を務めさせていただく。皆様のご協力をお願いします。

4. 王寺町の人口動向について

事務局説明

5. K P I 達成状況についての個別説明、評価

事務局説明

【質疑応答】

委員： 王寺町の人口動向について、外から転入された方の話であるが、王寺町は子育てがしやすいと聞いていた。

不登校生徒について、県や国の平均より少ないと聞いたが、私が思っていたよりたくさんいた。原因はなにか。

教育次長：特に中学生は中一ギャップが原因と考えている。小学生より中学生が増える傾向は全国的にみられる。不登校の原因については個々様々だが、全国的な傾向としては家庭環境、人間関係、コミュニケーションがとりづらい、勉強がついていけないということが主な原因である。学校でも不登校をなくす取組として毎日教師が不登校生徒の自宅へ電話をかけている。生徒の状況によっては、家庭に赴き一緒に登校して校長室で勉強する等の措置をとっているが、兄弟姉妹がいる家庭で、兄や姉が不登校になり、弟や妹がこれといった理由無く不登校になることもある。対策は講じているが、改善していないのが現状である。

また、教育相談ということで王寺町の中学校においても心の相談、カウンセリングを実施し、不登校の家庭についてフォローしている。カウンセラー、教師、家庭が連携して対策にあたっているが、保護者の理解がある場合もあれば、保護者が登校を積極的に促さない場合もある。個々の状況に応じて、今後も継続して接触する事により登校刺激を与えるような取組を行っていく。

委員：学校別の不登校生徒の人数は出ているか。

教育次長：王寺中学校 14 名、王寺南中学校 4 名、王寺小学校 1 名、王寺北小学校 4 名、王寺南小学校 1 名。

委員：いじめに関して、気付いた段階で発表することは恥ではない。早く対応する事が大切であると思う。

町長：現在、義務教育学校の令和 4 年開校に向けて準備を進めている。義務教育学校ができて小中一貫にしたからといって中一ギャップが無くなり、不登校が無くなるという単純なものではないが、一貫にする事で継続して通えるので環境が変わる事はない。勉強についていけなくて不登校という事態をある程度解消できると考えている。今も雪丸サポートスクールといった取組を行っている。狙いは学校の質が充実することで、子育て世帯を増やし、人口増加につなげることだと考えている。

委員：資料に各項目における達成率を書いているが、今後も数値が上下すると思っている。目標達成したからといって終わりではなく、今日出た意見を取り込んでより良い政策をおこなってほしい。

委員：王寺は交通の便が良い土地である。

町の利便性として、空港や新幹線の駅が近いというのは魅力的だと思うので、そういった環境を整えていく事が人口増加につながると思う。

しかし、もっと直接的に関係するのは水道料金である。王寺町の水道料金は大阪と比較すると高いと感じる。水道事業に対する料金をどういう風に住

	民に対して還元するかは重要だと思う。
委員	水道料金については、奈良県の水は吉野から水を持ってきているので、淀川から持ってきているのとは違い、固定経費が莫大である為、料金があがるのは致し方ないと思う。
部長	大阪からの転入者は高いと言われるが、王寺町の水道料金は県内では平均程度である。
委員	明神地区は空き家が多くなっている。駅から距離があり、坂もきついので車がないと不便である。高齢者は住みづらくなり、駅前に移住していくので、高齢化が進むと自然と空き家が増加してくる。空き家は防災・防犯においても対応が必要であるので、防災士を活用し、防災士と空き家をつなぐ取組が今後必要ではないか。
委員	空き家について、老人だけの家、空き家の防犯、防災に関して行政が斡旋して官民連携で取り組む仕組みについては、今後研究が必要である。
委員	がん検診の受診率についてだが、職場がある県外のかかりつけ医に診てほしいという意向があるのではないか。県外での受診に助成金を出せないか。
町長	がん検診の指標は国保分のみとなっている。王寺は社会保険が多い。指標の取り方の限界だと思う。
委員	町民から意見を吸い上げる為、SNS やインターネットを利用し、1人1人に情報が届くように政策を考えていただきたい。時代に応じた社会変動を頭に入れていただきたい。
部長	現在、王寺町では公式 LINE と Facebook を利用し、情報発信しているが、登録いただいた人にだけ限定的に発信している状況。
教育長	有用な情報を発信しているので、まずは登録してもらおう働きかけを行う。教育環境においても今の学校環境、特に ICT 環境は遅れている。義務教育学校設置と合わせて、最新の ICT 環境を導入する。一律的な教育ではなく、個別に最適化した授業ができるので、学習の進捗ごとに支援できるような環境を整えたい。不登校にも対応できるようにしていきたい。
委員	町内の新規起業について、どのような業種が起業しているのか。
参事	王寺町の産業構造は第3次産業が91%。新規起業の内訳は主に飲食業、サービス業である。起業は主に駅前であり、駅前ホテルの開業を見越した飲食業の出店が相次いでいる。商工会の方でも飲食業が集積しているので、まち歩きバルといった事業を展開して盛り上がっている。

委員	地元の産業が高齢化により縮小すると経済の消失が大きくなる。技術力のあるものが残るよう、何らかの支援の必要性を感じている。産業を引継いでいくスタンスが重要である。どういった産業を支援するかを考えていけない。
参事	今年度商工会と連携して商工事業実態調査を行っている。後継者がいなくなった空き店舗を別の事業者に貸す意向等調査を行い、今後の町の支援のあり方を検討する。
委員	観光事業についてだが、発信するだけの観光事業では物足りない。インバウンドを取り込むことを目的とした戦略的な観光事業が必要。その為には、外国人がどのようなニーズをもっているのかという分析が必要になる。日本版DMOといった仕組みが有効ではないか。
参事	DMOについて、王寺町としても研究を行った。もちろん王寺町だけで観光が完結するわけではなく、周辺には世界遺産である法隆寺や信貴山といった観光資源が多く存在する。王寺町は広域交通である鉄道や、二次交通のバスやタクシー、レンタカーがあるので、直接自治体と連携しながら「稼げる地域」を目指したい。DMOというのは、行政主導でなく、民間主導の組織である必要がある。地域の観光素材を活かしつつ、王寺町の特性を活かしながら観光振興を盛り上げていきたい。また、現在王寺町から斑鳩町、平群町、三郷町にはたらきかけて、観光を促進するような取組やウォーキングイベントの開催、東京での観光PRといった取組を行っている。
委員	東横インが王寺町にホテルを建てる狙いをしっかりと分析して、王寺町の戦略にうまく取り込んでいくべき。宿泊客の目的地は奈良か大阪か、どちらを想定しているのか。
町長	王寺町には事業所がないので出張需要というものはないと言われてきた。地元の方々の理解を得て、都市公園である東公園の半分を定期借地で貸すこととし、プロポーザル形式による提案募集をした結果、東横インが開業する事になったという経緯である。 東横インのニーズという事でいうと、奈良市内に東横インのホテルが二つあるが、高さ制限等により、もう少し部屋数が欲しかったが取れなかったようだ。王寺は天王寺から大和路線で20分、奈良まで15分であるので、提携して運営していきたいという考えがあるようだ。190という客室数になるが、80%は必ず稼働させると聞いた。
委員	宿泊客が飲食する店が必要だ。
町長	厨房のないホテルなので、商工会はじめ近隣の飲食店にビジネスチャンスとあっていただきたい。周辺に飲食店が少しずつ増えているが、王寺町は場

所がなく、テナント料が高い。飲食店の初期投資のハードルは高いかと思うが、近隣の観光資源を含めての周遊の拠点を王寺町で作っていかうと考えているので、ホテルを核に色々な産業のてこ入れになるかと思っている。

6. 全体講評

委員 人口動態に興味を持った。スカイヒルズに若い世代の転入が多く、王寺町の出生率も高い。しかしながら、今後人口が下降線を辿る予想となっているのは致し方ないと思う。また、王寺駅前のマンション開発について、詳細はわからないが、王寺駅前には王寺駅の交通の便が良い為、非常に売れ行きが早いと聞いている。今後、駅前の整備が必要になってくるが、駅前には狭い地域であり、緊急車両の通行の問題がある。そういった部分も含めて、駅北側、南側の再開発については計画的に行っていただきたい。

委員 子どもの7割が保育園に預けられている。
働ける母親が多いという事は、働ける環境が充実しているということだと思う。
預かり保育のように、働いている親が利用する、ちょっとしたリフレッシュにも利用できる、と働いている親にとっては非常に便利であると感じる一方、預けられている子ども達にとってどうかと思う部分もある。親子ともに良いシステムができればと思う。

委員 積極的な施策を行っている印象を受ける。ただ、資料だけを見て「どの点で、どう評価するのか」というのは難しい。数字だけを追いかけるのではなく、数字の裏側をしっかりと評価する事が大切だ。数字の良し悪しだけでなく、取組の中身を精査することが大切である。

委員 目標数値だけにとらわれることなく、取組を続けていただきたい。
がん検診の受診率が特に気になる。
今後、心臓や脳、痴呆予防等にも力を入れてもらえるとありがたい。

委員 王寺町は県内で非常に元気な町。頑張っていると思う。
そういった情報をどう発信するか。町の広報紙以外で何を利用するかが重要。インターネット・SNSといったコミュニケーションツールは人から人へ情報が繋がっていくと効果が高い。
また、ホームページや SNS において、店舗の情報など王寺町の事はそのページを見れば全てわかるという行政だけにこだわらないサイト運営をしてほしい。ネット環境を駆使した広報戦略を持てば王寺町をもっと PR できる

のではないか。

義務教育学校のような先進事例は移住者を呼び込める期待が高い。町全体をどう宣伝していくのか考えると、もっとPRが進むのではないか。

委員 王寺駅は交通の拠点であり、近辺は土地の値段が高騰してきている。狭い土地なので仕方ない部分でもあるかと思う。駅北側と南側をつなぐ久度大橋は非常に長く、電車留置線として県内でも類を見ない広さだと思う。この留置線の上空を有効活用し、商業化して集客できると良いのではと考えている。

委員 現在、駅のエスカレーターは上りばかりになっているが、高齢者にとっては下りが重要であると思う。健康づくりや高齢者に優しいまちづくりを考えるのであれば、そういった部分も今後考慮していただけると良いのではないかと思う。

7. その他

王寺町総合計画について
事務局より説明

閉会

以上